



T-Balloon™

T-Balloonとは、最先端テクノロジーを用いた、宝興産(株)独自のオリジナルバルーンです。
T-Balloon T Mは宝興産(株)の商標登録商品です。

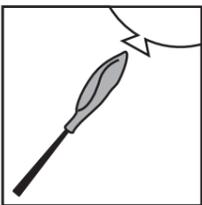
T-バルーン取扱説明書

重要:

モイスト・バック™ジップロック・バッグは、T-バルーン™を割れにくい状態で保つ為に、使用分を取り出した後は速やかに再封して、残りのバルーンを保管下さい。

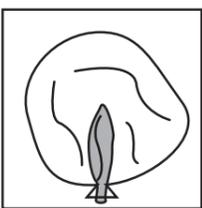
ステップ1

細いスティック棒を使ってラテックス・バルーンをT-バルーン™の中に挿入します。
ヒント：スティックはコーヒーステア程度の出来るだけ細いものが良いです。簡単に挿入出来る様に、スティックの周りにラテックス・バルーンを細く巻き付けます。



ステップ2

5秒間程度、外側のT-バルーンを膨らませます。
ヒント：これはラテックス・バルーンが膨らむ隙間を作る為です。外側のT-バルーンとの僅かな隙間を作る為なので、5秒程で充分です。



ステップ3

ラテックス・バルーンを推奨されている大きさ迄膨らませます。この段階では、未だラテックス・バルーンの口元は「縛らないで」下さい。
555mm又は440mmのT-バルーンには11インチのラテックス・バルーンをご使用下さい。
ヒント：屋外で使用する場合は、ラテックス・バルーンを通常よりやや小さく膨らませます。



ステップ4

再びT-バルーンの膨らましに戻り、「シワが100%無くなる迄」完全にT-バルーンを膨らませます。膨らます際は、ラテックス・バルーン用のインフレーターをご使用下さい。
ヒント：3~5週間の浮遊時間を保つには、100%シワが無い状態迄膨らませて下さい。



ステップ5

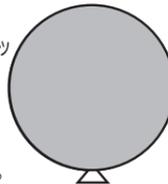
両方のバルーンの口元にリボンを巻き付けながらしっかりと縛ります。決してラテックス・バルーンのみを縛らないで下さい。
ヒント：最良の結果を得るには、下記のラーク・ヘッド・ノットをお勧めします。24時間以内にシワが現れる様であれば、結び方が充分ではないので結び直し下さい。



下記
図参照

ソリッド・カラー (単色) *右図

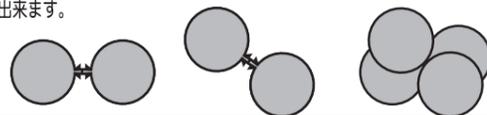
ラテックス・バルーンのみを膨らませます。外側のスパークレットは膨らませないで下さい。膨らました後はステップ5へ。



555mm T-バルーン= 18インチ・ラテックス・バルーンを挿入
440mm T-バルーン= 16インチ・ラテックス・バルーンを挿入
*直射日光でラテックス・バルーンが割れる場合がございます。

アーチ&ガーランド

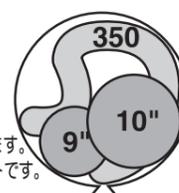
(16インチ・ラテックス・バルーンを入れた) 440mm T-バルーンを2個膨らませます。ラテックス・バルーンの口元どうしを結び合わせ2個玉(デュプレット)を作ります。2個玉どうしをねじり合わせ4つ玉(クワッド)にし、アーチ又はガーランドを作成する事が出来ます。



複数 (数個) のバルーンを入れる

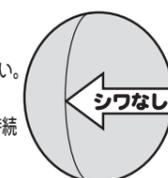
ラテックス・バルーンをお好みのサイズに膨らまします。結んでから余分な口元部分をカットします。

(お持ちであればリボンカッターを使用します)
2個目のラテックス・バルーンを挿入し、膨らませ、結んで口元部分をカットします。必要に応じてこの作業を繰り返します。コンウイン社製インフレーターフレックス・テイルトがベストです。その後ステップ4以降の作業を行います。
ヒント：ラウンドバルーンの方が、ハートシェイプ、フィギュア、その他シェイプバルーンよりも長持ちします。350の方が260よりも長持ちします。
ヒント：555mm T-バルーン内を埋める際には、小さなバルーンを数多く使用するより、時間短縮の為に、より数が少なく済む大き目のバルーンを使用して下さい。



重要:シワを残さないで下さい。

割れにくいこのT-バルーンは、膨張と外圧に耐えられます。バルーンを極度に高温な場所や、鋭利なものには近づけないで下さい。T-バルーンはジップロック・バッグがきちんとシールされ、ウェットタオルに湿度が保たれている限り割れにくい状態が持続します。必要に応じてタオルに湿度(水分)を与えて下さい。



(*写真図)



不十分な膨らましサイズ
フォイルバルーンの様シワを残さないで下さい。長期浮遊時間を保てません。



正しく膨らませたサイズ
シワが無くなった直ぐに膨らますのを止めて下さい。3~5週間浮遊します。



過度な膨らましサイズ
上記は正しく膨らませたサイズの2倍に膨らませた例です。これはお勧めしません!

T-バルーンの結び方 (ラーク・ヘッド・ノット結び)

●リボンでバルーン口元周囲にループを作り、先端を通してループを閉じます。
ヒント：強度のあるリボンを使用下さい。バルーンは結ばないで下さい。

●A、B両方のリボン先端をしっかりと引っ張りバルーンの口元部分を締めます。

●上下に引っ繰り返します。A、Bを相反する方向に強く引っ張り張ります。
ヒント：自身の腹部とカウンター等でバルーンを挟んで固定すると作業が容易です。

●A、Bの先端を持ち口元の周囲をそれぞれ逆方向から巻き付けた後しっかりと結びます。